農林水産大臣賞（優秀賞）

豊かな暮らしをいつまでも

香川県　高松市立香川第一中学校　二年　溝渕　朔也

僕は野球の練習の時に、冷たい水を飲む。一気にのどが潤されて元気が湧く。そして家に帰ってまっ先に向かうのがシャワーだ。暑い夏、やや冷たいシャワーを頭からかぶる。ほてった体が一気に冷やされて、最高に気持ちが良い。

また、僕は自転車に乗る事が好きだ。学校周辺を走るだけでも、二、三個ため池を見る。十分程走るとまた次のため池が見える。日本で一番狭い県なのに、なぜこんなにもため池が多いのだろうか。どうしてこんなにため池が必要なのだろうかと、ずっと不思議に思っていたので調べてみることにした。

僕が住んでいる香川県は、全国に比べて降水量がとても少ない県だ。昔から水不足に悩まされていて、雨が全く降らず日照り続きだったため、田んぼはひび割れていた。その上、川が短く急なため、せっかく雨が降ってもすぐ海に流れてしまう。そこで、一時的に水をためておけるため池が必要だった。県内のため池はとても多く、全国第三位。その数はおよそ一万二千箇所もあり、まさにため池王国だ。香川用水ができた今でも、農業用水の五十二パーセントをため池などに頼っているそうだ。

僕が通っていた浅野小学校では、毎年「ひょうげフェスタ」と呼ばれる行事がある。江戸時代に、香川県のほとんどのため池に携わったといわれている「矢延平六」さんをしのび、感謝するお祭りだ。

となりの川東にある「新池」は平六さんが作ったため池の一つだ。川東は土地が高いため、浅野全体に水が行き渡り、米や野菜、果物がよく育つようになった。ため池作りの中で一番苦労するのが、地面や堤防を固める事だ。僕も小学四年生の時に体験したが、機械がなかった時代に石や杵を使って地面を固めるのが、とても重く、少ししただけで僕は汗だくになってしまった。十一年もかけて新池を作り上げた当時の大変さを実感した。

台風が来たり、大雨が降ったりして池の水位が上がった時には、毎回のように堤防が切れ、修理をした。その度に堤防を更に強くし、はんらんを少なくしたのだった。

今でも昔の伝統を受け継ぎ、浅野では、米の豊作を願う「ひょうげ祭り」が行われる。顔に色とりどりの化粧をして、新池まで練り歩き、最後には、神輿ごと新池に飛び込んでフィナーレを迎える。そこで、初めて見た光景に僕は驚いた。

新池に巨大なソーラーパネルがたくさん設置されていて、太陽光発電もしているのだ。家の屋根や、山の斜面に設置されているのはよく見るが、池に浮かべると、色々なメリットがあるらしい。

木の伐採が無く、緑を残せるし、平らな水面にソーラーパネルを浮かべるだけなので、とても簡単だ。それに地震にも強そうだ。

新池の水面で、太陽の恵みと人の知恵を借りて電気を作り出せるなんて、すごい事だと思った。それもさかのぼれば、平六さんが苦労して作り上げたため池のおかげだ。

新池について深く調べてみると、矢延平六さんを含め浅野の水不足解消に携わった人達の苦労や工夫がよく分かった。だからこそ、水を一滴も無駄にしないという事を常に心掛け、「節水」に努めていくとともに、水への感謝の気持ちがよりいっそう強くなった。

今の僕にできるのは、この平六さんの偉業を次の世代に受け継ぎ、いつまでもきれいな水が飲め、おいしいお米や野菜が食べられる今を未来へ届けることだと思う。そのためには、池や川、海などの自然を汚さず、美しさを保てるように、今まであまり興味のなかった地域の清掃活動にも積極的に参加してみようと思う。

僕は今日も、野球の練習の時に水を飲む。今日の水は、いつもより一段とおいしく感じた。